

シト思考スルニ付其實行ノ場合ハ全然同大使ノ裁量ニ一任セラルルコトトシ兎ニ角至急右ニ對スル政府ノ方針ノ回示ヲ得度キ旨併セテ請訓シ來レリ

第四項 本件ニ關スル佐藤聯盟事務局長意見

上述「ドーズ」大使ノ提議及松平大使請訓中佛伊兩國トノ關係ニ對スル顧慮ニ關シ佐藤聯盟事務局長ハ松平大使ニ對シ左ノ通其ノ意見ヲ進達セリ

「三國限リニテ內協議ヲ開始シ佛伊ヲ除外スルハ頗ル機微ノ問題ナルコト貴電中御懸念ノ通ニテ殊ニ本官トシテハ過般ノ軍縮準備委員會中英米單獨協定ヲ避ケンカ爲佛ヲ我道連トシタルノミナラス互ニ情報交換ヲ內約シタル關係上一層具合惡シク感セラルル次第ナルモ去リトテ英米間內交渉ニ日本カ招請セラルルハ本邦トシテハ素ヨリ望マシキコトナリ去ル準備委員會中及ハス乍ラ本官ノ努力シタル所（第一章第五節第三項參照）モ實ハ英米間內交渉ニ何トカシテ割込マントシタルニ外ナラサルカ故ニ此ノ行懸ヨリスレハ「ドーズ」大使ノ招請ハ我トシテ最も歡迎スヘク佛伊ノ參加ナト願ル餘地ナキカ如シ

就テハ英米ヨリ更メテ閣下招請ノ場合貴電中ノ懸念ニ對シテハ我ノ三國間非公式會合ハ全然下打合セニシテ討議ノ基礎見付カリ次第直ニ佛伊ニモ通報スル諒解ノ下ニ之ヲ行ヒ此ノ旨豫メ佛伊ニモ通牒スルコトスル方從來ノ經驗ニ徴シ不必要ノ疑惑ヲ避ケ軍縮全般ノ成功上最モ望マシキコトト存セラル（以上加藤海軍代表トモ協議濟）

同時ニ佐藤局長ハ日本側ニテ主動的地位ニ立チ英米間ノ妥協ヲ圖ラレ度トノ「ドーズ」大使ノ希望ニ對シテモ左ノ通其意見ヲ松平大使ニ進達セリ

「大臣宛貴電ニ依レハ「ドーズ」大使ハ「ギブスン」ノ約束セル海軍力比較案ノ到達ヲ待タス英、米、日三國ノ政治家間ニテ話ヲ始メタキ意嚮ニテ殊ニ出來得レハ日本側ヨリ解決案ノ提出ヲ希望シ居ルモノノ如キ處「ドーズ」大使ノ意嚮力若シ

(一) 英米爭點ノ解決案提出ニ在リトセハ勿論不可能事ニシテ千九百二十七年ノ三國會議カ如何ニシテ英米間ノ「パリテ」ヲ測定調節スヘキヤノ問題ニ到達シ解決案ヲ見出し得シテ決裂セル歴史ニ顧ミ此ノ問題ヲ解決セサル限リ英米間ニ妥協成立スヘシトハ考ヘラレス「ギブスン」ノ口約セル比較案ハ即チ此ノ難問題解決ノ新ナル試ミニ外ナラス該案ノ研究以外ニハ目下ノ處他ニ名案モ無キ實狀ニシテ本邦側ヨリ英若クハ米ノ爲ニ解決案ヲ提出スル如キハ到底不可能ト云ハサルヘカラス

(二) 然ラスシテ海軍制限ノ促進上今後執ルヘキ方針如何ニ關シ日本側ノ意見申立ヲ希望スル次第ナリトセハ之ハ別問題ニシテ卑見ニ依レハ政治的ニ問題ノ解決ヲ計ラントスルモ事實上ノ根據ナクシテ之ヲ爲スヲ得ス米英、米日間海軍力ノ均衡ハ正ニ事實ノ問題ナリ即チ專門家ノ作製スヘキ海軍力ノ測定及比較案ハ政治家ノ裁決ニ至ル前提條件ナリ此ノ故ニ先ツ專門家ヲシテ比較案ノ協定ニ努力セシメ然ル後政治家ノ會合ヲ催シ關係國家ノ均勢ヲ決定セシムヘク順序ヲ顛倒スルハ成功ヲ困難ナラシムル所以ト信ス故ニ帝國政府ニ於テ獨自ノ制限案ヲ有セラルル場合ハ格別然ラサレハ豫定ノ通米國案ノ提案ヲ促シ關係國政府ニ充分研究ノ餘裕ヲ與ヘ然ル後政治家ノ會合ヲ催スヲ順序トスヘシ

尤モ米案ノ提出アリトスルモ今日ノ處之ニ對スル判斷批評ハ本邦ニ關スル限り東京ニ非サレハ之ヲ爲シ得サルコト勿論ナリ（以上加藤海軍代表承知）

第三節 關係國代表者間非公式相談會ニ關スル提議

第二項 「マクドナルド」首相ノ關係國代表者間非公式相談會開催方提議

六月二十七日松平大使ハ「ドーズ」大使ニ會見シ前顯「ドーズ」大使私案ニ關スル「マクドナルド」首相トノ會談ノ模様ヲ尋ネタル處「ドーズ」大使ハ「マクドナルド」首相ハ曩ニ聯盟軍縮準備委員會ニ於テ本問題ハ各國政府間ニ於テ考慮スルコトトナリ居レル點ニ言及シ今後如何ナル措置ヲ採ルヘキヤヲ協議スル爲七月二十二日ヨリ當地ニ於テ關係國代表者間

ニ非公式協議 (Informal Consultation) ヲ行ハント考ヘ居レルニ付右ノ趣ヲ國務省ニ報告シ置キタル處國務長官ヨリ回電ニ接シタリ』トテ電文ヲ内示シタルカ之ニ依レハ『「マクドナルド」首相ノ考ヘ居レル招請ハ重大ナル問題ヲ包含スルニ付大統領ト自分(國務長官)ト篤ト協議シタル上右ニ關スル措置振ニ付テハ追テ電報スヘキヲ以テ差當リ「マクドナルド」首相ヲシテ該期日ニ付直接間接新聞等ニ「コムミット」セシメサル様セラレタキ』旨記載シアリタリ尙「ドーズ」大使ハ一氣呵成ニ本件ヲ進ムルコトニ關シ「マクドナルド」首相カ閣議ニ諮リタル處他ノ閣僚ハ佛國側ノ感情ヲ害センコトヲ惧ルルコトヲ痛説シタル由ヲ松平大使ニ語レリ仍テ松平大使ヨリ右ノ結果英國首相ニ於テ關係國ノ非公式協議案ヲ考ヘタルモノト思ハル旨並ニ「ドーズ」ハ矢張日本側議長說ヲ可トスル旨申シ居リタルモ結局右ノ如ク「マクドナルド」首相トノ會見ノ結果多少方法ニ變化ヲ來シタルニ付日本側議長說ノ實現ハ無カルヘキカト思考スルモ「ドーズ」大使ノ性格ニ鑑ミ本件ハ如何ニ急激ノ發展ヲ爲スヤモ知レストテ更ニ重ネテ本件ニ關シ請訓アリタリ

第二項 非公式相談會開催方提議ニ關スル「スチムスン」國務長官出淵大使會談

本問題ニ關シ六月二十八日出淵大使米國務長官ニ面會ノ際同長官ノ所見ヲ叩キタル處長官ハイキナリ『「マクドナルド」首相ノ短兵急ナルニハ誠ニ閉口シ居ル』旨ヲ述ヘ『軍縮問題ハ重大且複雜ニシテ假令「Informal Consultation」ニセヨ七月十二日ヨリ會議ヲ開クカ如キハ到底満足ナル進行ヲ計ル所以ニ非スト思考ス(長官ハ實ハ米國側ニ於テ「フオーミュー」ハ未タ完成シ居ラスト附言セリ)去リトテ「マクドナルド」首相カ熱心ニ考ヘ居ル矢先冷水ヲ浴ヒスルカ如キハ元ヨリ慎マサルヘカラサル次第ニ付兎ニ角適當ノ機會ニ五國代表者會合シ技術問題ヲ離レテ専ラ政治的方面而カモ成ル可ク問題ヲ限局シテ協議ヲ爲スコト可然シトノ趣旨ニテ「ドーズ」大使ニ指令シツツアリ』ト語リ尙『英國側ニテハ八月ノ休暇以前ニ話ヲ進メン爲七月二十二日ト切出シタルモノナルヘシ』ト附言シタリ

同日ノ會談ニ依リ出淵大使ノ得タル印象ニ依レハ國務長官ハ本問題ニ關スル「マクドナルド」首相ノ態度ニハ聊カ當惑シ居ルモノノ如キモ同首相ヨリ口ヲ切り出シタル理由モアリ兎ニ角「ロンドン」ニ於テ五個國代表者間ニ政治的協議ヲ試マ

シムル外無カルヘシト決心シ居ルモノノ如ク見受ケラレタル趣ナリ

第三項 非公式相談會議題案ニ關スル米國側意見

六月二十九日「ドーズ」大使松平大使ヲ來訪シ「マクドナルド」首相提議ニ係ル關係國代表者間非公式協議開催方ニ關シ國務長官ヨリ更ニ電報ニ接シタリトテ其ノ電文寫ヲ内示セリ要旨左ノ如シ

『此際海軍軍縮問題ノ全般ニ互リ最終的處置ヲ取ル爲五國會議ヲ開催スル事ハ最も適當ト思考ス蓋シ「ジュネーヴ」三國會議ノ失敗ハ準備ノ不充分ナリシニ基因スルヲ以テ再ヒ之ヲ繰返スノ非難ヲ避ケサルヘカラス從テ最終的會議ノ爲ニハ技術問題ヲ商議スル必要アル處技術家ニ於テハ未タ研究ヲ了セス又技術家カ考ヘ居ル以上ニ縮少スヘキ事ヲ彼等ニ諒解セシムルニハ相當ノ時ヲ要スレハナリ然レトモ此際技術上ノ問題ヲ離レ一般方針ヲ五國代表者間ニ協議(Consult)スル事ハ差支無カルヘシ但シ英米間ニ於テハ「バリテ」ノ原則ヲ基礎トスルコトニ關シ英國側ノ同意ヲ得置ク事ヲ要ス若シ英國側ニ於テ之ヲ拒絶セハ今回ノ相談モ亦將來ノ會議モ無用ト思考ス(此點ニ關シ「ドーズ」大使ハ昨二十八日「マクドナルド」首相ニ面會ノ節首相ハ「バリテ」ニ同意ナル旨ヲ述ヘタル由語レリ)而シテ此ノ相談會ニハ大體問題ヲ左ノ四點ニ限ル事ヲ希望ス

1. To enumerate technical questions which are to be submitted to experts in development of methods for determining comparative naval strength.
2. To consider whether ultimate Conference shall deal with whole gamut of naval strength or only with particular category such as cruisers. Our desire is that ultimate conference should discuss categories covered by Washington treaty as well and deal with entire question of combatant ships of all kind.
3. Question as to whether there should be actual reduction of present or authorised construction or merely limitation which will result in completion of constructive programme. We feel strongly that this can be done equally amongst nations.
4. Question of relative strength which will meet Japanese needs and also problem of France and

Italy. If it were impossible to secure agreement with France and Italy this fact, if developed at the conference, would also probably determine whether they should be members of the final conference or whether be limited to the United States of America, Britain and Japan.

右 譯 文

一、海軍ノ比較勢力決定方法作成ノ爲専門家ニ提示セラルヘキ技術問題ヲ列擧スルコト
 二、最終的會議ハ海軍勢力ノ全般ヲ議スヘキヤ若ハ巡洋艦ノ如キ特定ノ艦種ニ限ルヘキヤヲ考慮スルコト、吾人ノ希望ハ最終的會議ハ「ワシントン」條約規定ノ艦種ヲモ討議シ且一切ノ種類ノ戦闘用艦船ノ問題全體ヲ議セントスルニアリ

三、現ニ建造中ノモノ若ハ建造ノ協賛ヲ經タルモノヲ現實ニ縮少スヘキヤ又ハ建造計劃ノ完成ニ觸レサル單ナル制限ニ止ムヘキヤノ問題、吾人ハ右制限ハ各國間均シク實行シ得ヘキモノト確信ス

四、日本ノ必要ニ應スル相對的勢力ノ問題及佛國及伊國ノ問題、若シ佛國及伊國ト協定ニ達スルコト不可能ナリトセハ右事實カ協議ノ際判明スルニ至リタル場合右兩國ヲ最終會議ノ一員タラシムヘキヤ若ハ合衆國英國及日本ニ限ルヘキヤヲ決定スルコトナルヘシ

右相談會ニハ成ルヘク右以外ノ問題ニ入ルコトヲ避クル様致度ク又今回ノ相談會ハ「ロンドン」ニ於テ開クコトトシ差支ナキモ結局ノ會議 (Conference) ヲ開催スヘキ場所ハ米國カ軍縮問題ニ關シ今日迄執リタル主動的立場ニ顧ミ米國ノ選定ニ委セラレタシ尤モ其ノ場合「ワシントン」ニスヘキヤ或ハ他ノ場所ニスヘキヤハ今日之ヲ決定セス」

「ドーズ」大使ハ「未タ本件ハ「マクドナルド」首相ニ語リタルノミナルヲ以テ極メテ非公式ノ話ナルヲ以テ本件ヲ公文ヲ以テ貴大使ニ申入ルルコトハ之ヲ避ケ居ル次第ナリ」ト言ヒタルニ付松平大使ハ引續キ「貴大使ノ率直ニシテ極メテ好意的ナルコトニ對シ本使ニ於テ感謝スルノミナラス日本政府ニ於テモ深く多シ居ル」旨ヲ述ヘタリ

同日ノ會見及從來ノ「ドーズ」大使トノ會談ヨリ得タル印象ニ關シ松平大使ハ比率問題ト牽連シ左ノ通其ノ所見ヲ開陳シ來レリ

「同日「ドーズ」ハ取急キ居リタルヲ以テ充分話ヲ爲ス違ナカリシニ付右ノ相談會ノ議題ニ付テハ更ニ會議スル積ナルカ是迄「ドーズ」トノ會談ニ依リテ本使ノ得タル印象ニ依レハ比率ニ關スル日本ノ希望ニ付テモ「ドーズ」ニ於テ相當好意的ニ考量シ居ルニ非サト思ハル節モアルニ付比率増加ノ希望ニ關シテハヨシンハ確定的比率ヲ述ヘストモ或ル程度ノ増率ヲ希望シ居ルコトニ付成ル丈「ドーズ」ノ諒解出來得ヘクシハ同意ヲ取付ケ置クコト適當ト存スル處其ノ方針ニテ進ミ差支ナキヤ本使ノ心得ヘキ事項ト共ニ大至急御回電ヲ請フ尙相談會ノ期日ハ追テ確定ノ上英國側ヨリ通知アルヘキモ大體七月二十二日頃ト御承知置テ請フ」

尙七月二日松平大使宮中ニ於テ「ドーズ」大使ニ面會ノ際右相談會開催ノ期日ニ關シ尋ネタル處「ドーズ」大使ハ「マクドナルド」首相ニ於テモ閣議ノ意見ヲ纏ムル必要アリ七月二十二日ハ延期トナルヘク確タルコトハ未タ何等決定ノ運ニ至ラサル由語レリ

第四項 非公式相談會議題案ニ關スル佐藤聯盟事務局長意見

米國側提議ニ係ル上記相談會議題案ニ關シ佐藤局長ハ七月三日加藤海軍代表ト研究ノ結果左記意見ヲ參考迄ニ上申シ來レリ

「一、米提案相談會議題ニ對スル帝國ノ對策ニ付意見 (相談會議題其ノモノニ對シテハ別ニ修正ノ必要ヲ認メス)

(一) 海軍専門家ヲシテ審議セシムヘキ事項ハ左ノ如クナルヘシ

(a) 艦艇制限方式

(イ) 艦種別 (ロ) 海軍力測定法 (ハ) 各艦種別中ノ融通法

(b) 右制限方式ニ基キ各國ノ保有スヘキ最少總體海軍力及制限若ハ減縮法ノ具體案

(二) 軍縮會議問題ノ範圍ハ補助艦比率ノ新設並ニ帝國ニ有利ナル會議地選定ニ容易ナル爲補助艦ノミニ制限スルヲ有利ナリト認ム但シ補助艦問題ノ協定成立後ニ於テハ要スレハ米ノ同意スル限リ主力艦ノ艦齡延長艦型縮小ノ問題ヲモ討議シ差支ナキモノト認ム

(三) 建造計畫トハ既製、建造中協賛濟及將來建艦計畫ノ總テヲ含ムノ意ナルニ於テハ其ノ制限(Limitation)ノ主義ヲ採用スルハ帝國ニ不利ナキモノト認ム即チ之カ制限ニ依リ協賛濟及將來計畫ノモノヲ減縮シ得ヘキヲ以テナリ若シ然ラスシテ單ニ將來造艦計畫ノミヲ意味スルニ於テハ其ノ制限ノミニテハ帝國ニ取リ不可ナルコト言フヲ俟タス故ニ此ノ場合ニ於テハ協賛濟ノミニ造艦計畫ニ付減縮ヲ行フノ主義ヲ可トスヘシ

後段 equally 云々ノ文句ハ意義不明瞭ナルモ帝國ハ八吋砲搭載艦及潛水艦等特殊艦種ニ於テ減縮シ得サル現狀ニ在ルヲ以テ本文句ハ必スシモ各國一様ニ承認シ得ヘキモノニ非サル點ニ付機宜列國ノ諒解ヲ得置ク必要アルモノト認ム

(四) ニ關シテハ在英大使宛貴電(註)ノ御趣旨ニ依リ適宜措置スルコト

二、海軍軍縮會議ハ之ヲ國際聯盟ノ權域内ニ於テ行フヲ可トスルコト累次上申セル如クニシテ米「ギブスン」ノ本年四月「ジュネーヴ」ニ於ケル聲明モ亦之ニ言及セリ仍テ會議地ハ爲シ得ル限リ「ロンドン」ニ選定スル様機宜主張スルヲ可トスヘシ」

(註) 第二章第四節「軍備制限ニ關スル帝國ノ方針」ヲ指ス

第五項 非公式相談會ニ關スル「マクドナルド」首相及松平大使會談

七月五日松平大使「マクドナルド」首相ノ求メニ依リ往訪シタル處首相ハ「未タ正式ニ申述フルニハ至ラサルカ自分ノ考ヘ居ル所ヲ非公式ニ御話シタシ」トテ軍縮問題ニ關シ「先ツ英米ノ間ニ如何ナル相違アルヤ、如何ニセハ此ノ困難ヲ除去

シ得ルヤ等ヲ「ドーズ」大使ト研究シ大體ノ見込立チタル所ニテ日本及佛伊ノ代表者ノ參加ヲ請ヒ隔意ナク協議ヲ行ヒ度積リナリ(註一)尤モ正式會議ノ開催ハ更ニ其ノ後トナルヘシ此等ノコトニ關シテハ從來「ドーズ」大使ヨリ詳シク話シ居ル由同大使ヨリ聞及ヒ居リタリ最初ヨリ會議ヲナス時ハ却テ不必要ノ論議ヲ起シ失敗ニ歸シ却テ面白カラサル結果ヲ來スヘキニ付今回ハ成功ヲ期スル爲成ルヘク會議前ニ意思ノ疏通ヲ計リ度考ナリ」ト述ヘタルニ付松平大使ハ「其ノ相談會ハ凡ソ何時頃開カルヘキ見込ナリヤ」ヲ尋ネタル處首相ハ「未タ其期日ノ見込立チサルモ八月ニハ休暇ヲ取リタキニ付出來得ヘクンハ其前ニ片付ケ度希望ナリ」ト述ヘタルニ付松平大使ハ日本力是迄總テノ軍縮會議ニ參加シ誠意軍縮ノ目的達成ノ爲努力シタルコトヲ述ヘ右相談會ニモ喜ンテ參加協力スルコトトナルヘキ旨ヲ述ヘタル處首相ハ「日本力今日迄軍縮會議ニ誠意協力セラレタルコトハ記錄ニ依リテ承知セリ」ト述ヘタリ

松平大使ハ更ニ「實ハ英米間ニ於ケル直接交渉ノ話カ先般「ジュネーヴ」豫備會議ノ際ニ起リタル時ニハ本問題ニ付最初ヨリ英米ト協力シ來リタル日本力度外視サレ英米兩大國ニ於テ協定スルコトヲ他國ニ押付クルカ如キ場合ヲ生セサルヤトノ懸念ヲ懷キタルモノモアリタルカ右會合ハ單ニ英米間ノ爭點解決ヲ爲ス意味ニテ決シテ他國トノ關係ヲ定メテ押付クルカ如キコトナキコト明トナリ而カモ其ノ話ノ發展ハ隨時日本側ニ隔意ナク話サルヘキコトト信シ安心シ居ル次第ナリ」トテ「チュムバレン」前外相トノ話殊ニ同外相ノ言明(註二)ヲ話シタル處此ノ點ニ關シテハ「マクドナルド」首相ハ「自分ニ於テモ全然同様ニ考フルニ付安心アリタシ」ト述ヘ尙日米ノ關係ニ付テハ特ニ親善ヲ維持シ互ニ協力シ度考ナル旨ヲ述ヘタルニ付松平大使ハ右隔意ナキ話ヲ謝シ尙今後軍縮ノ話ニ付テハ外相ヲ經ス直接首相ト話スルコトニ打合せ置キタリ

(註一) 七月十一日在京英國大使來省本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ海軍軍縮問題ニ關シ英國政府ハ本件カ真ノ商議ヲ開始シ得ル狀態ニ達シタル際ニハ日本政府ノ誠實ナル協力ヲ得ンコトヲ希望ストノ趣旨ヲ申出テタルニ付幣原外務大臣ヨリ軍縮問題ニ對スル帝國政府ノ態度ハ九日發表ノ總理ノ聲明(第二章第八節第三項註參照)ニモ明カナル通ニテ固ヨリ其ノ實現ニ協力スルノ覺悟アルコトヲ述ヘタル後右申入中「眞ノ商議」

トハ五國內協議ノ事ナリヤ正式會議若ハ其ノ他ノ會議ヲ指スモノナリヤ「商議ヲ開始シ得ル狀態ニ達シタル際」トハ如何ナル意味ニテ何人カ斯カル狀態ニ達セシムルモノナルヤ本件ハ現ニ「ロンドン」ニ於テ如何ナル進展ヲ見居ルモノナリヤ又英國政府ハ差當リ帝國政府ニ於テ如何ナル措置ヲ執ルコトヲ期待セラルル次第ナリヤト質問シタル處右諸點ハ何レモ重要ト思考スルニ付早速本國政府ニ電照スヘシトテ引取りタリ越テ十九日英國大使館員來省前記會議ノ際ニ於ケル質問ニ對シ英國政府カ日本政府ニ求メントスル協力ハ英米側ニ於テ「ヤードスチック」ヲ作成シ之ヲ日本政府ニ通達スル場合之ニ關スル日本政府ノ腹藏ナキ意見ヲ承知シ度ク又日本政府ニ於テモ今ヨリ豫メ右尺度ニ付充分ナル研究ヲ遂ケラレタル上別ニ御意見モアラハ提案アリタキ趣旨ナリ尙又眞ノ商議云々トハ英米側作成ノ尺度ヲ關係國ニ通達シ關係國トノ商議ヲ開始シ得ル狀態ニ達シタル場合ナリトノ説明ヲ爲シタリ

(註二) 五月十五日松平大使「チエムバレン」外相ニ會見シ「ギブスン」ノ聲明ニ關聯シ軍縮問題ニ關シ日、英米間從來ノ密接ナル關係ニ鑑ミ互ニ腹藏ナキ意見交換ノ必要ナルヲ述ヘタル上英米間ノ商議ニ於テ日本ヲ度外視シ英米間ニ定メタル事ヲ押付クル如キ事アリテハ問題ヲ紛糾セシムル虞アルニ付商議ノ模様ハ日本側ヘ充分ニ通報セラレタキ旨申入レタル處外相ハ「今回米國ノ提議ハ海軍力比較ノ標準決定上伸縮性ヲ有スルヲ以テ從來關係國間ニ存在セル困難ヲ除ク事ニ於テ頗ル有望ナリト思考ス而シテ英米間商議ノ目的ハ兩國間ニ橫ハル從來ノ困難ヲ除去スル爲ニシテ關係國ニ對スル「ルール」ヲ發見スル爲ニ非ス即チ英米間ノ比率ニ付テハ問題ナキモ海軍力比較ノ標準ニ付從來意見一致セサリシモノニシテ此點ニ付テ双方ノ案ヲ比較シテ妥協點ヲ見出サントスル趣意ナリ英米間ノ商議ニ於テ他國ニ對スル陰謀ヲ爲スカ如キ事ハ全然無キニ付日本政府ニ於テモ安心セラレタシ尙如何ナル形式ニ於テ商議ヲ開始スヘキヤハ未タ決定セサルモ自分ノ考ニテハ米國政府ノ希望ニ副ハサルヘカラスト思考ス」ト述ヘタリ

松平大使ハ更ニ「率直ニ云ヘハ日本ニ於テハ「ワシントン」條約ノ比率ニ付今日迄不滿ノモノアリ殊ニ其ノ比率ヲ其ノ儘他艦種ニ適用スル事ヲ押付ケラルル如キ事態ヲ心配シ居ル次第ナル」旨ヲ述ヘタル處外相ハ「自分ハ判然トハ申シ難スルモ比率ノ問題ニ付テハ「ジュネーヴ」會議ニ於テ「ブリッジマン」ハ幾多ノ讓歩ヲ日本ニ爲ス用意アリシ如ク記憶ス自分ハ米國ノ立場ニ付言ヒ得ル地位ニ非サルモ同國ノ新聞其他ニ現ハレタル調子ニ依レハ或ハ米國側ニテハ「ワシントン」條約比率ヲ他艦種ニモ適用スヘキモノト考ヘ居ルヤモ知レサルニ付本件ハ適當ノ機會ニ日本政府ヨリ米政府ニ對シ談合セラルル事然ルヘキカト存ス何レニセヨ英米間ノ商議ハ前述ノ通兩國間海軍力比較ノ標準ニ付會談スルモノニシテ他政府ノ比率問題ニハ觸レサル積リナリ」ト説明シ尙「軍縮問題ニ對スル日本ノ協調的態度ハ英國政府及海軍當局ニ於テ多シ居ル次第ニテ右商議ニ關シテハ日本政府ト聯絡ヲ取ルヘシ」ト言明シタリ

第四節 英米内交渉我方參加方ノ提議ニ關スル帝國政府回訓及帝國政府ノ對軍縮一般方針

帝國政府ハ前顯松平大使累次ノ請訓ニ接スルヤ事態ノ重要且機微ナルニ鑑ミ慎重考慮ノ結果六月二十九日左ノ通回訓セリ
(一) 英米間ノ妥協ヲ圖ルコトハ海軍々備縮少問題ノ成功ニ最モ緊要ナリト考フルカ故ニ英國側ニテ「ドーズ」大使ニ異議ナキニ於テハ我國トシテモ兩國ノ内協議ニ參加シ圓滿ナル解決ノ爲メ最善ノ努力ヲ試ミ同時ニ我カ見解ヲ開陳スルノ機會ヲ捉ヘ置クコトト致度ニ付「ドーズ」ニ對シテハ今後右ノ御含ヲ以テ應待アリ度ク情勢ニ依リテハ貴官ニ於テ調停ノ勞ヲ執ラルルコトハ差支ナシ尤モ左ノ諸點ニ付テハ常ニ充分ナル考慮ヲ拂ハレ度シ

(二) 英米ノ調停成立後ニ於テ我主張ノ實現ヲ圖ルコト頗ル困難ノ場合アルヘキニヨリ調停斡旋ヲ試ミラルルニ當リテハ常ニ我方ノ立場ヲ有利ニ展向セシムルコトニ留意アリ度シ